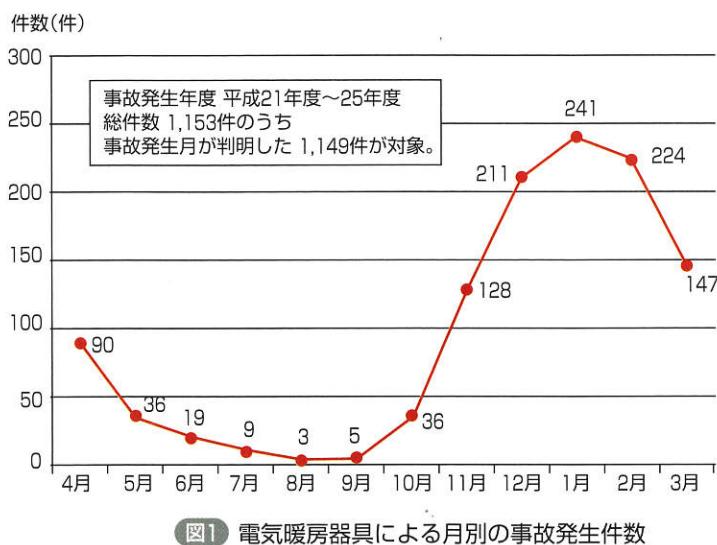
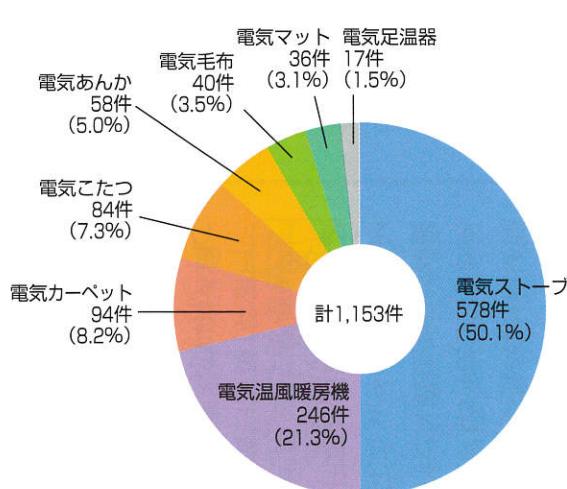


# 電気暖房器具による事故



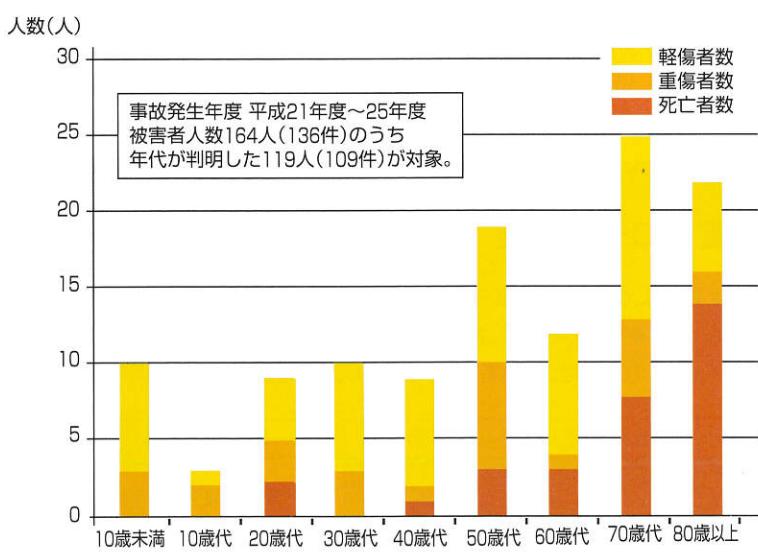
製品評価技術基盤機構(N-TE)には冬になると、石油ストーブなどの燃焼器具のほか、電気ストーブ、電気温風暖房機、電気カーペット等、電気暖房器具での事故が毎年多く報告されます。これらの製品



N-TEに寄せられた電気ストーブ、電気カーペット等の電気暖房器具による事故は、平成21年度から平成25年度の5年間に1,153件が報告されています。電気暖房器具による月別の事故発生件数を図1に示します。10月頃から事故が増え始めます。製品別事故件数を図2に示します。事故件数が最も多いのは、電気ストーブの578件(50.1%)で、次に電気温風暖房機の246件(21.3%)、電気カーペット94件(8.2%)、電気こたつ84件(7.3%)の順になっています。

事故では、全焼などの火災のほか、死亡・重傷等の重篤な被害に至る場合もあります。このほか、電気暖房器具での注意点を紹介します。

## 1. 事故の概要



年代別被害者数と被害状況を図3に示します。事故総数1,153件中、人的被害があったのは136件(164人)で、そのうち被害者の年代が判明しているのは109件(119人)です。特徴としては、50歳代、70歳代、80歳代の人数が多く、40歳以下約2倍以上発生しており、死亡や重傷等の重篤な被害に至る割合も高くなっています。なお、事故件数よりも被害人数が多い理由は、暖房器具の事故は全焼などの火災による事故が多いためです。

## 2. 事故事例

電気暖房器具では、次の事故情報が報告されています。

### 事例1 電気ストーブ

使用中の電気ストーブ付近から出火し、住宅の一部が焼損して、1人が死亡した(平成24年11月、90歳以上、女性)。

被害者が電気ストーブに近づきすぎて、着衣に着火し、火災に至つたものと推定される。

### 事例2 電気温風暖房機

火災が発生し、一人が重傷を負つて死亡に至つた(平成21年10月、年齢不明)。

電源コードが途中でねじり接続され、接続部の接触不良により異常発熱が生じ、火災に至つたものと推定される。

### 事例3 電気カーペット

電気カーペットとフローリング、上敷きカーペットの一部が焦げた(平成21年12月、年齢不明)。

15年の長期使用により、発熱体と電源供給線の接続端子部に屈曲等の機械ストレスが加わって、接触不良が生じ、異常発熱して焦げたものと推定される。

### 事例4 電気こたつ

建物3棟を全焼する火災が発生し、現場に電気こたつがあった(平成25年4月、50歳代、男性)。

こたつのヒーター回路をこたつ内に床に直接置いて使用していたことにより、こたつ布団など周辺の可燃物と接触して出火に至つたものと推定される。



写真1 電気ストーブで燃える衣類

なお、電気こたつの本体表示には、「床などに置いて使つ」とは絶対にしない旨が、取扱説明書には、「ヒーター＝ソート単体では使用しない、火災の原因となる」旨が、記載されている。

## 3. 電気暖房器具による事故の防止

電気暖房器具による事故を防止するために事故事例分析からみた注意事項を次に示します。

### (1) 電気暖房器具の共通注意事項

① 電源コードを束ねたり、折り曲げたり、ねじったり、家具やこたつなどで踏んだ状態で使用しない。また、電源コード途中での不適切なねじり接続は絶対にしない。

② 電源コードの表面に損傷がみられたら、直ちに使用を中止する。

③ 暖房器具が焦げ臭い、温まりにくい、動作が不安定で電源が入つたり切れたりする等の症状がある場合は、使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜いてメーカーや販売店に相談する。特に、10年以上の長期間使用した製品は、いつもと違うと感じたら使用を中止する。

④ 就寝中や外出時は必ず電源を切り、電源プラグを「ラセントから抜く。

### (2) 電気ストーブ

- 周辺に燃えるものを置かない。
- 洗濯物をストーブの上で乾かさない。

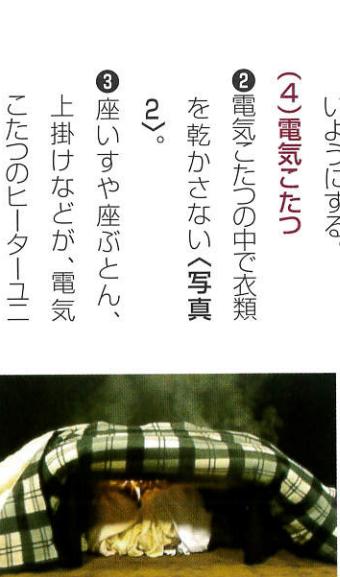
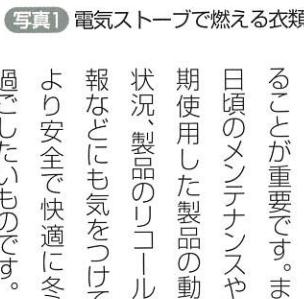


写真2 こたつの中の洗濯物が発火

### (3) 電気カーペット

① 本体を広げ、しわのない状態で使用する。

② 机などの重量物を乗せたり、強く曲げたりして発熱体を傷めないようにする。

### (4) 電気こたつ

③ 電気カーペットを保管する際は、折り跡がつかないよう心にする。

## まとめ

電気暖房器具による事故を防止するためにには、取扱説明書をよく読み、正しく適切に使用することが重要です。また日頃のメンテナンスや长期使用した製品の動作状況、製品のリコール情報などにも気をつけて、より安全で快適に冬を過ごしたもののです。

**nite**

National  
Institute of  
Technology and  
Evaluation

独立行政法人 製品評価技術基盤機構

製品安全センター 製品安全調査課

〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-67 大阪合同庁舎第2号館別館  
TEL.06-6942-1113 FAX.06-6946-7280 URL:<http://www.nite.go.jp/>